

商店街活性化を目指して まちなかワークショップ開催

11月16日、新富地区の賑わいづくりの取組として、まちなかワークショップを行いました。

この取り組みは、地元住民の代表者と、東京大学、九州経済研究所の方をお招きし、「新富地区の活性化のために何が出来るか」という意見交換を行うものです。この日は新富地区の町内企業の代表者から一般町民までの11名が参加し、東京大学学生3名、役場職員3名でグループワークを行いました。

空間資源（武家屋敷、野町の短冊状の土地など）、文化資源（流鎚馬、八月踊りなど）、時間資源（バスの待ち時間など）の3つの視点で討論が行われ、新富地区のアピールポイントを探したり、新富地区を盛り上げるための具体的な取り組みなどについて話し合いました。参加した方からは「いろんな職種の方と語れて刺激になった。」などの感想がありました。

このワークショップは今後も行われ、新富地区の活性化から町全体を盛り上げるために取り組みを進めていきます。



ワークショップの様子



討論をする参加者たち

まちの話題

TOWN TOPIX

荒瀬避難訓練

11月8日、荒瀬振興会にて津波を想定した避難訓練が実施されました。午前10時のチャイムの後、振興会内の放送で訓練放送が流され、地域住民約44名が参加し、高齢者の方と付き添いで逃げる方や車で近くまで移動するなどお互いに助け合いながら行動していました。

訓練終了後、防災管理監の吉永さんから地震と津波の仕組みや避難時の安全確保などについての講義、地域包括支援センターの能勢さんから避難所での健康管理や感染症の予防についての講義が行われ、有意義な訓練となりました。



MBCと防災パートナーシップ協定を締結

10月27日、肝付町は災害時の情報発信などで連携する防災パートナーシップ協定を南日本放送と締結しました。

この防災協定は、緊急時の情報伝達で南日本放送のテレビ、ラジオ、データ放送、スマートフォンのアプリを活用することや、肝付町が開催する防災研修会への気象予報士等を派遣することが盛り込まれています。

肝付町では町民の生命を守るため、南日本放送と連携しながら、今後、災害に備えていきます。

